

## 平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

1. 明るく健康で、自らを高め、他人を尊重する、人間性豊かな人格の完成をめざす。
2. 工業教育を通じて、規範意識を身につけさせ、勤労と責任を重んじ、幅広い技術をそなえた社会人を育成する。
3. 北摂唯一の府立の工業高校として、「ものづくり」の技術と技能、知識によって将来の地域社会を担うことができる人材を育成する。
4. 府立の工科高校における高大連携重点型校として、大学等と連携した工業教育で、技術と理論を兼ね備えたエンジニアを育成する。

## 2 中期的目標

- 1 「確かな学力」の育成
  - (1) 新学習指導要領を踏まえ、基礎的・基本的な学力の定着をめざした授業改善に取り組む。
    - ア 少人数授業、授業評価、ICTの活用、研究授業等を通じて、より「わかりやすい授業」をめざして組織的に授業改善に取り組み、中退率改善を図る。
    - ※ 平成 25 年度入学生から導入した「学び直し」のための学校設定科目「工業入門」を発展、充実させ、基礎的・基本的な学力の定着をめざす。
    - ※ 生徒向け学校教育自己診断における「授業は分かりやすく楽しい」の肯定的な評価の目標を平成 29 年度は 50%以上とし、平成 31 年度には 60%とする。(平成 27 年度 36.6%、28 年度 46.5%)
    - ※ 中退率 4%未満をめざす。
- 2 安全安心で魅力ある学校づくり
  - (1) 生徒の規範意識を醸成し、規律ある学校生活を送らせるとともに、個々の生徒への支援体制を充実させる。
    - ア 挨拶、身だしなみ等、社会人として求められる礼儀を身につけさせるため、基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成に努める。
    - イ 教育相談体制を充実させるとともに、人権教育・支援教育を推進する組織の活性化を図る。
  - (2) 生徒の健康管理・安全衛生の意識を高めるとともに、事故のない安全な学校づくりに取り組む。
    - ア 生徒保健委員会を活用し、校内美化の取組みを推進する。
  - (3) 生徒会活動、部活動を通じて生徒の自己有用感を醸成するとともに、集団や学校への帰属意識を高める。
    - ア 行事、生徒会活動、部活動の活性化を図り、生徒自らが課題意識をもって学校生活を送れるよう支援する。
    - ※ 年間遅刻総数について、平成 29 年度 3500 件以下に削減することを目標とし、平成 31 年度には 3000 件以下とする。(28 年度 3918 件)
    - ※ 学校管理下での事故、特に「実習中の事故ゼロ」を継続する。
    - ※ 部活動の加入率を平成 29 年には 50%以上とし、平成 31 年には 60%以上をめざす。(平成 28 年度 45.7%)
- 3 自立・自己実現の支援（～工科高校の理念である「専門分野の深化」と「高等教育機関への接続」の推進～）
  - (1) キャリア教育・職業体験教育の充実を努める。
    - ア 「インターンシップ」等の体験的学習を重要な教育活動として位置づけ取り組む。
  - (2) 資格取得指導等を通じて、生徒に達成感、成就感を醸成し、進路実現への意欲を高める。
    - ア 資格取得や就職試験に向けた全校的な協力体制を推進する。
  - (3) 理工学系大学等の高等教育機関への進学を希望する生徒の支援を強化し、ものづくりマインドを持った将来の高度技術者の育成をめざす。
    - ア 工学系大学進学専科における理工学系大学等への進学希望者の進学率 100%をめざす。(平成 28 年度 94.4%)
  - (4) 全国工業高等学校長協会の 100 周年記念事業「小型人工衛星打ち上げプロジェクト」の製作協力校として、打ち上げに参画する。
    - ア 大阪府立大学工学研究科小型宇宙機システム研究センター等の関係諸機関と連携を図りながら、生徒に技術・技能を学ばせる。
    - ※ 学校紹介による就職内定率 100%を堅持する。
    - ※ インターンシップの参加者数の目標を平成 29 年度 35 人とし、平成 31 年度には 50 人にする(平成 28 年度 30 人)。
- 4 地域連携・地域貢献の取組みの推進
  - (1) 地域の中学校教員との情報交換(中高連絡会)や学校訪問、出前授業等の充実を図るなど、中高連携を推進し、アドミッションポリシー(求める生徒像)が中学生、保護者等に明確に伝わるよう学校情報を積極的に発信する。
    - ア 生徒・保護者向けの学校説明会等に加え、中学校教員向けの施設見学会等を実施することにより、中学生、保護者、教員等の工科高校への理解(工科高校の「再発見」)を促し、志願者増加につなげる。
  - (2) 学校設定科目「課題研究」における「ものづくり」技術を活用した地域貢献活動を通じて、生徒に自尊感情・自己有用感を醸成する。
    - ア 平成 27 年度から実施している課題研究発表会を定着、発展させ、プレゼンテーション能力を育成するとともに、地域に積極的に公開し、工科高校の特色を広く伝える。
    - ※ 中学校訪問数延べ 100 校以上を継続する。
    - ※ アルミ製朝礼台等の製作・寄贈、茨木市イルミネーション事業等への参画を継続する。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 30 年 1 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>「授業が分かりやすく楽しい」という設問に肯定的な回答をした生徒が、昨年度の 46.5%から 59%に増加、また、「教え方に工夫をしている先生が多い」についても 2.3%増加した。これは、今年度、授業改善推進プロジェクトチーム(仮称)による他校視察と報告、さらに研究授業を実施した成果である。しかし、「他の先生が授業を見学に来ることが良くある」という設問の肯定的回答は大幅に減っており、来年度に向けて組織的な働きかけが必要である。課題である部活動については、「活発である」という設問について生徒の肯定的回答は 38%から 51%に増加した。今年度、各部の活躍をHP等で積極的に発信したことが、この結果に繋がっていると思われる。その他、「プライバシーが守られている」(18.1%アップ)「この学校に入学してよかった」(10.2%アップ)等ほとんどの項目がアップしたが、「災害に対する指導」のみ 7.8%ダウンした。今後、危機管理に対する指導を充実させていくことが課題である。</p>	<p>&lt;第 1 回(5/31 実施)&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・組織的な授業改善が求められており、そのための振り返りシートの活用が必要である。</li> <li>・遅刻指導は、生活指導部だけではなく、担任による生徒内面に切り込んだ指導が必要である。</li> <li>・本校教育を地域に発信する取組みが必要である。</li> </ul> <p>&lt;第 2 回(10/30 実施)&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・工科展は素晴らしい取組みである。是非とも、継続開催をすべきである。</li> <li>・授業アンケートの満足度が高い教員の授業を研究授業として公開すべきである。</li> </ul> <p>&lt;第 3 回(2/20 実施)&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTを活用した授業を見学させていただいたが、大変わかりやすかった。今後も、様々な授業改革をしていく必要がある。</li> <li>・遅刻生徒を減少させるために、生徒会役員の生徒達が協力する場面を創出した方が良い。</li> <li>・生徒たちのプレゼンテーション能力を高める取組みが必要である。</li> </ul>

## 府立茨木工科高等学校

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1. 「確かな学力」の育成	(1) 基礎的・基本的な学力の定着をめざした授業改善の取組み ア 少人数授業・研究授業等の取組み イ 中退率改善をめざす取組み ウ 「学び直し」を活用した基礎・基本的な学力の定着をめざす取組み エ 家庭学習の習慣を身につけさせる取組み オ 授業公開の取組み (2) 工学系大学進学専科における取組み ア 理工学系大学等で高度な知識、技術を学ぶための確かな学力をつける取組み	(1) ア 数学、英語で1クラス2展開授業、習熟度別授業を実施する。さらに、全教科を通じてICTを活用するなどの授業改善を組織的におこない「わかりやすい授業」を創出することで学びの楽しさを伝える。 イ 学習指導、生徒指導の充実のもとより、多様な生徒が入学してくることを踏まえ、教育相談の充実、生徒情報の共有化などを通じて中退率の減少を図る。 ウ 学校設定科目「工業入門」において、教育産業の教材を活用するなどしながら、生徒それぞれのニーズや学力に応じた教育を展開することで基礎学力の定着を図る。 エ 初任者、経験年数の少ない教員を中心に、自主的な授業公開・研究協議を6月及び11月に実施する。また、保護者への授業公開の機会を5月に加え、1月にも設定する。 (2) ア 理工学系大学等への進学や入学後の学びを意識し、基礎から応用に発展する数学、理科、英語の充実、およびカリキュラムの精選をはかる。	(1) ア 生徒アンケートによる満足度「授業はわかりやすく楽しい」50%以上 (H28 46.5%) イ 中退率4%未満 (H28 5.1%) ウ 教育産業の基礎力診断テストにおける1年3学期次の数学学力下位ゾーン(D3)を1学期実施との比較で3ポイント減少 エ 学校自己診断「他の先生が授業を見学しに来ることがある」肯定的回答50%以上 (H28 47.6%) (2) ア 習熟度による展開授業、理科と英語の増設 (H28 数学のみ) や教育課程の精選	(1) ア・生徒アンケートによる満足度は59.0% (昨年度より12.5%アップ) と大幅にアップした。(◎) ICT授業等を推進し、さらなるアップを図りたい。 イ・中退率は5.1%であった。(△) ※中退率は3月末に判明 ウ・基礎力診断テストは2月23日実施。3学期次の数学学力下位ゾーン(D3)は1学期との比較で1ポイント増加した。(△) エ・「他の先生が授業を見学に来ることがある」肯定率は30.2%と昨年度を大きく下回った。教員の意識を高めるとともに、今年度設置した授業改善プロジェクトチームを軸に、授業公開を推進していく必要がある。(△) (2) ア・工学系の理科と英語について習熟度別授業を実施した(○)
2. 安全安心で魅力ある学校づくり	(1) 規範意識を身につけさせ、個々の生徒への支援体制を充実させる取組み ア 遅刻数削減の取組み イ 教育相談体制の充実 (2) 生徒の健康管理・安全衛生の意識を高める取組み ア 生徒保健委員会の活用 (3) 生徒会活動、部活動を通じた生徒の自己有用感、帰属意識の醸成 ア 行事、生徒会活動、部活動の活性化	(1) ア・遅刻ゼロの日、生活強調週間、登下校指導の強化等、生徒の意識を喚起する取組みを全校あげて組織的に推進するとともに、平成27年度の遅刻数大幅削減に引き続き、昨年度もさらに減少したことを踏まえ、「遅刻指導」の強化を図り、さらなる削減をめざす。 ・平成26年度に導入した身だしなみ、授業規律違反カード制を徹底し、一層規律ある学校生活を送らせる。 ・インターネットやスマートフォンの利用等、情報の取り扱いについての基礎的な資質や能力を講演会、教科指導(情報技術基礎)を通じて養い、情報モラルの育成を図る。 イ スクールカウンセラー、支援教育コーディネータ等の活用を通じて、個に応じた支援を充実させる。 (2) ア 行事後、考査前の一斉清掃に徹底して取り組み、校内美化を推進する。 (3) ア・生徒会主催の校外清掃活動を実施するとともに、募金活動等、社会貢献につながる活動に取り組む。 ・部活動を活性化し、生徒の加入率の向上に努めるとともに、施設設備の充実に取り組む。	(1) ア・遅刻総数 3500 を目標 (H27年度 4735件、H28年度 3920件) ・身だしなみ、授業規律に係る懲戒指導件数5件以内。(平成27年度 58件、H28年度 8件) イ 学校教育自己診断の教育相談関連の肯定的回答の5%増加 (H28 38%) (2) ア 保健安全指導部による清掃点検における○(良好)の増加。(H28年度 91.5%) (3) ア・参加生徒数 200名以上。(平成28年度 207名) 地域住民との交流。 ・加入率50%以上。(H28 45.7%)	(1) ア・遅刻数は、3530件で、目標としている3500件をほぼ達成した(○)。 ・「授業規律違反カード」の改善、定着により生徒の授業規律は改善しているが、身だしなみ、授業規律による懲戒は昨年度より増加した。(12件)(△) ケータイ・インターネットに係る懲戒の件数は0件であった。(◎) イ 学校教育自己診断において教育相談関係の肯定率は45.3%と昨年度より7.4%アップした。(◎) (2) ア 清掃点検における良好の割合は、89.5%で昨年比若干(2%)減少したが、概ね良好であった。(○) (3) ア・参加生徒は部員数減の影響があり181名で目標を達成できなかったが、地域住民との一斉清掃の取組みは、地域からの良い評価を得ている。(○) ・5月時点の加入率は44.0%と目標値には到達しなかった。しかし、1月に実施した生徒の学校教育自己診断において、「部活動が活発である」という肯定的な回答が51%あり、昨年度より13.0%上がった。来年度、さらなる活躍場面の創出とHP等による活躍の発信を軸に、加入率の増加と活性化を図りたい。(○)
3. 自立・自己実現の支援	(1) キャリア教育・職業体験教育の充実 ア インターンシップ等への取組み (2) 資格取得を通じた生徒の達成感・成就感の醸成、進路実現意欲の向上 ア 資格取得や就職試験に向けた全学的な協力体制の推進 (3) 高等教育機関への進学希望生徒の支援 ア 工学系・大学進学専科における取組み (4) 小型人工衛星製作への取組み	(1) ア 地域産業との連携を深め、受け入れ先企業の安定した確保に努める。 イ インターンシップを体験した生徒の成果発表の場を設け、参加生徒の増加につなげる。 (2) ア・授業はもとより早朝、放課後の時間帯を活用し、生徒の資格取得を支援する。 ・地域企業を組織的に訪問し、求人確保、企業連携の強化に努める。 ・就職試験のための個々に応じた面接指導の取組みを充実させる。 ・教育産業の支援を受け、本人の適性をより客観的に把握することにより、就職におけるミスマッチを防止する。 (3) ア 数学・英語・理科の放課後、土曜日や長期休業中の講習や数学Ⅲにおける習熟度2展開授業を通じて、理工学系大学等の受験、入学後の学びに備える。 (4) ア 全国工業高等学校長協会の100周年記念事業「人工衛星打ち上げプロジェクト」の製作協力校として、大阪府立大学工学研究科小型宇宙機システム研究センターとの連携を深めながら人工衛星製作に求められる技術を学ばせる。	(1) イ・参加生徒35名 (H28 30名) (2) ア・電気系2年生の第二種電気工事士合格率75%以上。(過去5年平均72%) その他の資格取得、特に危険物取扱者乙種、旋盤技能検定3級の合格者数の増加。 ・企業訪問数140社以上。(平成28年度132社) ・第1次就職試験合格率75%以上。(H28 75.9%) (3) ア・進学希望者の進学率100%。 ・難関大学合格者の輩出。 ・連携大学数の増加。(H28 大工大1校のみ) (4) ア・宇宙環境に耐えうる電源周辺部品の製作。	(1) ア・13社に23名が参加した。(昨年比77%) (△) (2) ア・第二種電気工事士の合格率は58.1%で目標を達成することができなかった。(△) また、危険物取扱者乙種については、5回終了時点で合格者26名(昨年26名)と昨年同数であったが、旋盤技能検定3級は受検が1名しかおらず(昨年3名)合格したものの目標は達成できなかった。(△) ・企業訪問数は目標値の140社であった。(○) ・1次就職試験合格率77.9%で目標達成した。(◎) (3) ア・理工系大学進学希望者の進学率は87%であった。難関大学に挑戦する意欲づくりと学力向上に向けた対策は引き続き課題である(△) ・4大学(関西大1回、大工大5回、大阪電気通信大2回、大産大1回)との連携を行った。(◎) (4) ア・担当である電源部分の基礎回路は完成し、8月に人工衛星製作協力校合同合宿に参加した。(○) ・大阪府立大学工学研究科との連携授業を5月、9月、12月(2回)、3月計5回実施した。(○)。 ・全国産業教育フェアにおいて、近畿代表として人工衛星への取組みを展示発表した。(◎)
4. 地域連携・地域貢献の取組みの推進	(1) 中高連携の推進 ア 中学校の生徒、保護者、教員の工科高校への理解(工科高校の「再発見」)を促す取組み (2) 「ものづくり」による地域貢献活動の取組み ア 課題研究充実への取組み (3) 地元自治会、行事への参加、連携	(1) ア・中学校教員向けの施設見学会等を実施する。 ・3つの系の連携を深め、地域の小中学校に働きかけ、出前授業を積極的に行う。 ・実習体験・オープンスクール・学校説明会について、反省点を踏まえ、実施方法、PR方法を改善し、参加者増加につなげる。 ・ホームページのさらなる充実を図り、学校情報を効果的に発信する。 (2) ア・平成27年度より実施している課題研究発表会を継続・発展させる。 ・アルミ製朝礼台等の製作・寄贈、茨木市イルミネーション事業への参画等の「従来のものづくり」による地域貢献活動を一層推進する。 (3) ・地元自治会との交流、部活動を通じての地域連携の深化	(1) ア・参加者数15名以上。(今年度新規事業) ・5校以上の出前授業実施。 ・延べ参加者数600名以上、(平成28年度601名) アンケートによる満足度90%以上。(H28年度約90%) ・更新頻度を1週間に1回以上とする。 (2) ア・課題研究発表会における表彰制度の設立 ・茨木市内の小中学校への寄贈(2台以上)、イルミネーション事業への参画を継続。 (3) ・地元行事への出席、地域の文化祭やイベントへの部活動の参画(年間3回以上)(H28年度1回)	(1) ア・今年度は実施できなかった(△) ・出前授業は7校で実施した。(◎) ・実習体験、オープンスクール、学校説明会の参加者数は703名(昨年比116%)。アンケートの満足度は90%を超えた。(◎) ・更新頻度は平均1週間に2回以上を達成。昨年比およそ34倍の更新を行った。アクセス数は昨年比20%増であった。来年度も継続する。(◎) (2) ア・課題研究発表会に表彰制度を導入した。(○) ・アルミ製朝礼台3台と掲示板6台を製作して寄贈した。また、茨木市イルミネーション事業における機材製作をおこない、事業の成功に貢献した。(○) ・地元文化祭への参画に加え、「文化部作品展」「茨木工科展」を初開催し、部活動を中心に交流した。また、軽音楽部が支援学校での交流を行った(◎)

